

「レタスコルキールト病（仮称）」について

東信地域のレタスほ場において、レタス根腐病とは異なる萎凋症状等が確認されたため、平成28年度から長野県野菜花き試験場佐久支場において、原因究明に取り組んだ結果、これまで本県で確認されていない土壌病害の発生が疑われました。

このため、根部から分離された細菌をレタスに接種した結果、同様の病徴が再現され、同じ菌が再分離されたことから、土壌病害であることが明らかとなりました。

佐久支場において分離菌株の細菌学的性状試験、遺伝子解析を行うとともに、名古屋植物防疫所に同定を依頼した結果、令和元年7月、国内では未確認の*Rhizorhapis suberifaciens*によるレタスコルキールト病（仮称）であることが確認され、令和元年（2019年）11月26日特殊報が発出されました。

現時点（令和元年11月26日）では、国内で本細菌による他の品目の病害報告はありません。海外では、アメリカ、ギリシア、オーストラリアなどで「Corky root of lettuce」（英名）として発生が報告されています。

被害の様子

- （1）地上部では生育遅延、下葉の黄化、重篤な場合は萎凋症状を示します（図1）。
- （2）根部は主根に黄色のバンドを形成する。バンドは徐々に拡大し、最終的には黒褐色に変色し、根部がコルク化します（図2）。重篤な場合は主根を残し、細根が脱落します（図3）。主根内部の褐変はほとんど観察されませんが（図4）、一部の株では、わずかに褐変することもあります。
- （3）初期症状や軽微な発病の場合は、レタス黒根病と症状が類似し、肉眼での識別は困難です。病徴部を顕鏡すると、レタスコルキールト病（仮称）では菌泥の噴出が観察でき、一方、レタス黒根病は厚膜孢子、分生子などが観察されます。

伝染経路と発生生態

- （1）病原菌は、細菌の一種で、土壌伝染します。
- （2）根腐病等の土壌病害を併発し、重症化することがあります。
- （3）海外では、本病に対しては、品種間で罹病性に差異があることが報告されています。
- （4）分離菌をアブラナ科（キャベツ、はくさい、ブロッコリー）及びキク科（しゅんぎく、べにばな、ひまわり）植物に接種しましたが、これらへの病原性は認められませんでした。

防除の方法

- （1）現時点（令和元年11月26日）では、本病に対する登録農薬はありません。
- （2）発病株は抜き取り、ほ場外に搬出し土中深く埋めてください。
- （3）連作により土壌中の病原細菌の密度が高まるため、発生ほ場では連作を避け、アブラナ科野菜等との輪作を心がけてください。
- （4）本病の発生が確認されたほ場では作業終了時に泥落としを確実にを行うとともに、トラクター等の農機具類、長靴など土壌が付着している可能性のあるものについては、ていねいに洗浄して、他のほ場に拡散しないようにしてください。
また、明渠を設置するなどして雨による土壌の流出を防止してください。
- （5）海外の文献によると、窒素過多によって本病の発生が助長されるので、土壌診断に基づいた適正な施肥を行ってください。



図1 地上部の病徴（萎凋症状）

（野菜花き試験場佐久支場 提供）



図2 根部の病徴（軽微な株）

主根に黄色から黒褐色のバンドを形成

（野菜花き試験場佐久支場 提供）



図3 根部の病徴（重篤な株）

主根を残し、細根が脱落

（野菜花き試験場佐久支場 提供）



図4 主根内部の症状（重篤な株）

根腐病と異なり、内部褐変しない

（野菜花き試験場佐久支場 提供）

疑わしい症状を見つけたら、最寄りの農業改良普及センター又は病害虫防除所までご連絡ください。

長野県病害虫防除所（東北信）Tel026-248-6471（中南信）Tel0263-53-5642

発行 長野県病害虫防除所 令和2年3月作成